

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人お茶の水女子大学

1 全体評価

お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」とのミッションを掲げ、全ての女性とその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障されて、自身の学びを深化させ、自由に自己の資質能力を開発させる支援をすることを目指している。第3期中期目標期間においては、国境を越えた研究と教育文化の創造と、夢の実現を支援するための学びの場を提供し、時代と社会の要請に応じてグローバルに活躍する女性リーダーを育成するとともに、女性の生涯にわたる生き方のモデルを提供すること、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて豊かで自由かつ公正な社会の実現に寄与すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、グローバル女性リーダーの育成に向けた精力的な取組を実施するとともに、学外の人的資源の活用による学長補佐体制の強化を行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 大学の強み・特色を結集・融合した戦略的研究組織である「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」を新設し、機構の下に、生命科学・生活科学を重点研究領域とする「ヒューマンライフイノベーション研究所」及び人間発達科学・教育科学を重点研究領域とする「人間発達教育科学研究所」を設置している。同機構及び研究所における研究力の抜本的強化のため、学内資源の重点配分を実施するとともに、情報発信・連携機関の拡大等、研究拠点構築に向けた取組を推進している。（ユニット「健康科学・人間発達科学分野における国際的研究拠点形成」に関する取組）
- グローバル女性リーダー育成研究機構では、重点研究領域で実績のある外国人研究者を特別招聘教授として雇用したことなどにより、国際共同研究が6件（第2期中期目標期間の3か年平均：1件）に増加している。さらに、これまでの女性リーダー育成の取組が高く評価されたことで、世界を代表する大学で開催されてきた「タナーレクチャー」の日本初開催校として選出され、「スペシャルタナーレクチャー - 21世紀の女性の生き方 -」を開催しており、1,200名以上が参加している。（ユニット「グローバル女性リーダー育成のための国際的教育研究拠点形成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学外の人的資源の活用による学長補佐体制の強化

学長のリーダーシップに基づく戦略的取組を推進するため、企業経営を専門とする外国人有識者を経営協議会委員とすることで、グローバルな視点から大学経営を推進する体制を強化し、企業との包括協定を締結している。このほか、メディア関連専門の有識者を学長特命補佐とすることで、スペシャルタナーレクチャーの開催や特色ある取組についての広報等、大学の戦略的取組を社会に発信する機会が増大するなど、学外の人的資源を活用した学長補佐体制の強化が図られている。

○ 年度計画を著しく上回る目標の達成

年度計画【43-1】に関して、女性の管理職比率は、平成28年度において46.7%となっており、年度計画に掲げる目標である「30%」を著しく上回っていると認められる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 特定基金の積極的な広報展開等による外部資金比率（寄附金）の上昇

学長特別顧問及び学長特命補佐（ファンドレイジング担当）をメンバーとする「チーム未来開拓プロジェクト」を設置し、三つの柱（Ⅰ「女性リーダー育成のための修学支援事業」、Ⅱ「同窓生との連携と社会貢献を目指した学びの場整備事業」、Ⅲ「共同研究や社会人教育等の推進事業」）を趣旨とした「未来開拓基金」を積極的に広報展開し寄附金を募集した結果、国際交流留学生プラザ建設費及びパブリックアート設置への賛同者から多額の寄附があり、平成28年度における寄附金に係る外部資金比率は約15.6%（対前年度比12.6ポイント上昇）となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 授業アンケートを迅速に表出するシステムの構築・運用

個々の学生が入力した授業アンケート結果の迅速な集計・分析・教員へのフィードバックを可能にする授業アンケート結果表出システム(nigala)の運用を開始するとともに、授業アンケートの結果を科目分野別・履修人数別・学期形態別に可視化する「nigalaダッシュボード」を公式ウェブサイトに掲載している。授業アンケート及び学修行動調査のデータは、全学教育に係る企画構想に生かされ、平成28年度は大学関係者を対象としたFD・SD「教学IR：内部質保証の漸進-シラバス・授業アンケート・学修行動調査」において授業アンケートの結果分析等を発信している。

○ 新型AO入試の導入による多面的・総合的な選考の実施

多面的・総合的に志願者の意欲、適性、能力、基礎学力を判断する新型AO入試「新フンボルト入試」を平成29年度入試から導入している。第一次選考試験ではプレゼミナールによる選考、第二次選考試験では、文献や資料を活用してレポートを作成し、グループ討論や面接を通じて論理力や課題探求力等を評価する「図書館入試」や、専門性に即した実験や実験演示、データ分析の課題等を行うことで探究する力をみる「実験室入試」を実施しており、出願者は平成28年度入試の約3倍となる198名となっている。

○ グローバル女性リーダーの育成に向けた精力的な取組の実施

グローバル女性リーダー育成研究機構では、重点研究領域で実績のある外国人研究者を特別招聘教授として雇用したことなどにより、国際共同研究が6件（第2期中期目標期間の3か年平均：1件）に増加している。これら女性リーダー育成の取組が高く評価されたことで、ハーバード大学（米国）やオックスフォード大学（英国）等世界を代表する大学で開催されてきた「タナーレクチャー」の日本初開催校として選出され、「スペシャルタナーレクチャー - 21世紀の女性の生き方 -」を開催しており、1,200名以上が参加している。